

共通科目

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅰ（内科・神経内科）	【担当教員】 氏名 大澤源吾 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[内線番号] 302
【授業コード】 a 111	[メールアドレス] osawa@nur.ac.jp [オフィスアワー] 月～水の在室時（事前連絡が必要）
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科での履修は、リハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓につながるものでなければならない。 ・対象とするヒトの病態の特徴を把握し、リハビリテーション医療における問題点を併せて明らかにすることができれば幸いである。 <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療は患者を中心とするものである。患者がもつ問題点を解決すべく履修してほしい。過大な情報からの継ぎ接ぎのような論文を作ってはならない。 	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般医学の中でもとくに摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動科学のそれぞれのコースにかかわりの深い医学について学ぶ。 ・摂食嚥下障害関係では、摂食嚥下関連器官の機能と病態について、高次脳機能障害関係では認知症による精神機能低下や失語・失行・失認等の巣症状とその背景について、運動機能科学関係では、骨・筋組織変化とその対応を中心に、広範な医学の中でも比較的限られた分野を選択的に履修する。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動機能科学のそれぞれのコースにかかわりの深い疾患病態とその対応について学ぶ。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う変化について説明できる。 ・脳血管障害に関わる病態について説明できる。 ・嚥下障害に関わる要因について説明できる。 ・骨・筋組織障害について説明できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験もしくはレポートへの取り組みで総合的に評価を行う。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>学生時代に使った内科書など。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂原茂一：リハビリテーション（岩波新書） ・安藤徳彦：リハビリテーション序説（医学書院） 	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	人の老化と臓器機能低下	高齢者総合的機能評価の重要性 フレイルの概念	ヒトの諸臓器の機能等を復習しておく.	10分
2	生活習慣と血管障害	運動療法の理論	ホルモン分泌から効果発現までの過程.	10分
3	脳血管障害後の身体及び運動機能	うつ病態	高次脳機能について学習しておく.	10分
4	廃用症候群と低栄養	サルコペニア, 骨粗しょう症	栄養学の初歩的学習をしておく.	10分
5	アルツハイマー病	早期治療～予防に向けて	細胞の蛋白質生成機序を整理しておく.	10分
6	パーキンソン病の病態と対応	早期診断、早期治療に向けて	運動と調整機能を復習しておく.	10分
7	嚥下障害と誤嚥性肺炎	胃瘻と問題点	肺炎を復習しておく.	10分
8	終末期リハビリテーション	高齢者リハビリにおけるその他の問題点	どんな問題があるかを確認しておく.	10分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
特になし

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）</p>	<p>【担当教員】 氏名 高橋明美 [研究室] A棟1階</p>
<p>【授業区分】 共通科目</p>	<p>[メールアドレス] akemi.t@nur.ac.jp</p>
<p>【授業コード】 a 112</p>	<p>[オフィスアワー] 月～木：9：00～18：00 金：13：00～18：00</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】 特記なし 《受講者に関わる情報》 講義は、予め学生にテーマを出し、そのテーマについてまとめた内容を発表する形式で行う。また、発表した内容と講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。 《受講のルールに関わる情報》 特記なし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。こうしたトピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する。また、医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶことで、「障害の予防」に対する理解を深める。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のリハビリテーションの役割について説明できる ・運動器リハビリテーションの意義について説明できる ・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>課題に対する発表50%、レポート50%で総合的に評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリントを配布する</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>その都度紹介する</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と 方向性	障害の発生予防に視点を置いたリハビリ テーションをどのように展開してい るか	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
2	運動器リハビリテーション①	ロコモティブシンドロームに視点を おいたリハビリテーションの展開	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
3	運動器リハビリテーション②	「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」と の関係について	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
4	身体的虚弱 (Frailty) に対するリハビ リテーション	Frailty の構造とリハビリテーション (評価から治療、予防まで)	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
5	骨・関節疾患のリハビリテーション	関節リウマチや変形性関節症に代表さ れる骨関節疾患の病態からリハビリテ ーション	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
6	疼痛のリハビリテーション	種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する 評価から治療—CRPS との関連	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
7	脊椎疾患のリハビリテーション	腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表さ れる脊椎疾患の病態からリハビリテー ーション	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分
8	がん患者のリハビリテーション	がん患者の問題となる廃用症候群の予 防から QOL 向上まで	予め資料配布講義時 10 分発 表講義内容と合わせレポート	30 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
講義テーマや内容は前後する可能性があります

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 研究方法論	【担当教員】 八木稔（非）、山村健介（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] 八木：yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp 山村：yamamurak@dent.niigata-u.ac.jp
【授業コード】 A 104	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》 八木：疫学および統計学に関する基本的な知識があることが望ましい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》 八木：授業に基づいたレポートの提出を求める場合がある。</p>	
<p>【講義概要】（オムニバス方式） 八木：まず、疫学的な観点から観察研究と介入研究について学ぶ。つぎに、医学統計学の基礎的な考え方、統計学的な分析方法の意味、および統計的な検定方法を学習する。さらに、その実際的な適用の仕方について実用に即したデータ処理について理解することになる。</p> <p>山村：これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】 八木：医療統計学を具体的に理解する能力を養う。 山村：研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察研究と介入研究について説明できる。 2) 質的なデータに関する検定、およびオッズ比、相対危険度について説明できる。 3) 数量的なデータに関する検定、および統計的推測について説明できる。 4) 相関と回帰について説明できる。 5) 研究とは何かを理解する。 6) 研究の方法には種々のものがあるので、それぞれについての特徴を知る。 7) 学術論文の構成を理解する。 8) アイデアと仮説の違いを説明できる。 9) 仮説に基づいて実験計画をたてることできる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験50%、レポート50%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】 プリントを配布する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】 八木；中村 好一：基礎から学ぶ楽しい疫学（第3版），医学書院，2012. ISBN-10: 4260016695（疫学はもとより，それに関する統計学についてのエッセンスが記してある） 山村；随時説明する。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	観察研究, 分析研究, および介入研究 (八木)	観察研究, 分析研究 (コホート研究, 症 例対照研究) および介入研究, それぞれ の特徴と考え方について講義する。	準備学修: 左記3つの研究様式 について調べておくこと。 事後の展開: レポートを提出す ること。	90分
2	統計的検定 (I) オッズ比, および相対危険度 (八木)	カイ二乗検定およびフィッシャーの確率 検定について講義と演習を行う。	準備学修: カイ二乗検定につい て調べておくこと。 事後の展開: 課題を解きレポー トとして提出すること。	90分
3	統計的検定 (II) 統計的推測 (八木)	t 検定および分散分析について講義と演 習を行う。	準備学修: t 検定と分散分析との 異同について調べておくこと。 事後の展開: 課題を解きレポー トとして提出すること。	90分
4	相関と回帰 (八木)	相関係数, 相関と因果, 単回帰分析, 重 回帰分析, およびロジスティック回帰分 析について講義と演習を行う。	準備学修: 相関と回帰の基本的 知識について調べておくこと。 事後の展開: 課題を解きレポー トとして提出すること。	90分
5	科学的な研究方法とは—研究の種類 学術論文の構成 (山村)	科学的な研究方法とは—研究の種類 学術論文の構成	準備学修: 各自の研究テーマを 考えておくこと。 事後の展開: 各自の研究テーマ にあった総説論文、原著論文を 1編ずつ探すこと。	90分
6	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方 (山村)	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方	準備学修: 上記の原著論文を一 読しておくこと。 事後の展開: 各自の研究テーマ について総説論文の情報を活用 しながら仮説を複数立てること。 こと。	90分
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法 (山村)	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	準備学修: 上記仮説の実現性を 検討しておくこと。 事後の展開: 立てた仮説の妥当 性を裏付ける文献を検索すること。 こと。	90分
8	文献の読み方 軌道修正の必要性—研究例紹介 (山村)	口頭試問	準備学修: 新たに集めた文献を 一読しておくこと。 事後の展開: 研究計画について のレポートを提出すること。	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

八木: 統計学は、数学とは異なります。統計学を理解するために、統計学と疫学に独自の用語および考え方に興味をもつようになしてください。
山村: まだ具体的な研究プロジェクトは決まっていない時期の開講で、自分なりに考えた研究テーマをもって一回目の講義に望んでください。

【科目名】 研究方法論	【担当教員】 道関京子 都地裕樹 (非)
【授業区分】 共通科目	[研究室] サテライト教室
【授業コード】 A 104 (T)	[メールアドレス] 道関: kei.doseki@gmail.com 都地: tsuji@meiji.ac.jp
【配当年】 1年次	[オフィスアワー] 土曜日
【開講時期】 前期	【単位数】 1単位
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 問題意識を形成し、研究課題について考えておくこと 《受講のルールに関わる情報》 特になし	【コマ数】 8コマ
<p>【講義概要】 (オムニバス方式) 実験で得られたデータに対する統計学的解析は必要不可欠である。統計学の基礎的な考え方、用語、分析方法の意味、および統計的検定の方法を学習する。その実際的な適用の仕方について学び、実用に即したデータ処理が行えるようにする。 学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、実験計画を立てるために必要な知識を議論しながら検討し明確化していく。</p> <p>【一般教育目標 (GIO)】 統計学的解析を具体的に理解し、適用する能力を養う。 研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 記述統計学について理解する。 2) 推測統計学について理解する。 3) 仮説検定について理解する。 4) 様々な統計的手法について理解する。 5) 研究とは何か、各研究方法の特徴を理解する。 6) 研究のグランドデザイン、実証研究の量的、質的研究について理解する。 7) 課題から仮説の設定と、仮説に基づいた実験計画をたてることができる。 8) 学術論文の構成と、および資料やデータ支援の Website やソフトウェアの活用を理解する。 	
<p>【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 授業への取り組み 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】 ・適宜資料配布の予定</p>	
<p>【指定図書・参考書】 随時説明する。 木下康仁：グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い。新曜社，2008</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	記述統計学・推測統計学 (都地)	記述統計学・推測統計学、それぞれの特 徴と考え方、および相関について講義す る。	統計用語の基本を調べてお く。課題を解きレポートとし て提出する。	90 分
2	仮説検定 (都地)	仮説検定の考え方や、t 検定、F 検定、 χ^2 検定について講義する。	課題を解きレポートとして提 出する。	90 分
3	分散分析 (都地)	分散分析について講義を行う。	課題を解きレポートとして提 出する。	90 分
4	ノンパラメトリック検定・講義のまと め (都地)	ノンパラメトリック検定の紹介および、 これまでの講義のまとめを行う。	これまで学んだ統計知識を整 理する。	90 分
5	科学的な研究方法とは－研究の種類学 術論文の構成 (道関)	科学的な研究方法とは－研究の種類学 術論文の構成	各自の研究テーマを考え、そ れにあった総説論文を探す。	90 分
6	研究のグランドデザイン 量的研究と質的研究の特徴 (道関)	実証研究のアプローチ アイデアと研究仮説の違い仮説の立 て方	各自の研究テーマについて総 説論文の情報を活用しながら 仮説を複数立てること。	90 分
7	研究仮説の違い仮説の立て方 仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法 (道関)	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	仮説の実現性を検討する。 立てた仮説の妥当性を裏付け る文献を検索すること。	90 分
8	文献の読み方 資料やデータ支援の Website やソフト ウェアの活用 (道関)	軌道修正の必要性－研究例紹介	研究計画についてのレポート を提出する。	90 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】 まだ具体的でなくても、自分の研究テーマをもって講義に望むこと。</p>
--

【科目名】 精神医学	【担当教員】 的場已知子 式場隆史 (非)
【授業区分】 共通科目	[研究室]非常勤講師室 (式場)
【授業コード】 a 101	[オフィスアワー]来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>精神医学についての一般的な基本知識を得ている (国試レベル) ものとして講義を行います。</p> <p>精神医学に関する基本的な講義を受講したことのあるレベルを対象に行います。</p> <p>実際の診察や面接の場面をわかりやすくするためビデオ等の教材を使いたいと思います。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>資料配布は当日に行います。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>(オムニバス形式)</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神医学についての一般的な知識と治療技法について学ぶ。統合失調症や気分障害などの疾患ごとの講義のほか、精神科医療と社会、リエゾンに関しても説明する。そして、これらの中からリハビリテーションに関連することも説明する。 <p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神医学をチーム医療の観点から視点を変えて理解できるようになること。 身近にあるメンタルヘルス上の問題に気づけるようになること。 <p>【行動目標 (SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考えたり、専門医につなげたりする。 問題提議ができること。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート提出 100%で評価を行う。</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>その都度紹介する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>その都度紹介する。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	精神医学総論 (式場)	精神医学総論について講義する.	事前に配布資料を確認しておく。	30分
2	精神科疾患学各論 (式場)	精神科の疾患について講義する.	事前に配布資料を確認しておく。	30分
3	精神科治療学 (式場)	精神科の治療について講義する.	事前に配布資料を確認しておく。	30分
4	精神科リハビリテーション (式場)	精神科のリハビリテーションについて講義する.	事前に配布資料を確認しておく。	30分
5	精神医療現場の現状 (的場)	患者から見た精神医学	事前学習：精神科の知識の振り返り。 事後：その日のまとめとチーム医療において自らの職種を振り返り、何が重要かを認知すること。	30分
6	看護から見た精神医学 (的場)	講義		30分
7	コメディカルから見た精神医学 (的場)	講義		30分
8	医師から見た精神医学 (的場)	講義		30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
精神障害者のリハビリテーションは身体疾患のリハビリテーション以上に重要な場合が多いと思います。基本的な理論と考え方を身につけてください。

【科目名】 公衆衛生学総論	【担当教員】 加藤豊広（客） [研究室] 客員教員室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] K3027867@kadai.jp
【授業コード】 a 102	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。本講義では公衆衛生学の理論とその研究方法である疫学を学習する。 【一般教育目標(GIO)】 公衆衛生学の知識を身につける。 統合医療の知識を身につける 【行動目標(SBO)】 疫学研究をデザインできる。 統合医療を説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 記述式試験を実施する。試験 60%、授業・課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 その都度紹介していく。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	イントロダクション	衛生学・公衆衛生学と統合医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
2	健康問題の変遷 医療の歴史Ⅰ	狩猟採集漁労・農耕牧畜社会と伝統医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
3	健康問題の変遷 医療の歴史Ⅱ	工業社会と伝統医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
4	法律と医療	憲法・民法・刑法と医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
5	疫学 因果関係	ロスマンのパイモデルと偶然・系統的誤差	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
6	疫学 健康指標	比率（罹患率や有病率等）や人年法	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
7	疫学 観察研究	記述的な研究とコホート研究・症例対照研究	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
8	疫学 介入研究	ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究とエビデンス	配布資料やノートを読んでおくこと	15分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>実験のデザインをする場合に疫学の知識は大変役立ちます。</p>

【科目名】 神経解剖学	【担当教員】 氏名 西野幾子（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス]
【授業コード】 a 103	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特記なし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>黒板を使用する。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>神経系は中枢神経系と末梢神経系に区分されるが、その機能と構造は一体である。神経系の発生を追うことにより、両者の関連性を理解する。</p> <p>また、脊髄、脳幹、大脳の内部構造を学ぶことにより、上行性・下行性伝導路における大脳皮質、神経核、白質の関係を三次元的に理解する。</p> <p>このため、最初に神経系全体について組織構造を含めた知識の整理を行い、一層の理解の深化を図る。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>神経系の基本的な構造や機能について、発生学的、組織学的、臨床的な見地から説明ができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>学生個人の研究テーマにかかわる問題について神経解剖学的に研究し、臨床的側面からの考察も行なう。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験80%、レポート20%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>分担解剖学 1巻、2巻、3巻：金原出版</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>末梢神経解剖学 基礎と発展：サイエンス・コミュニケーション・インターナショナル 1995</p> <p>神経局在診断 その解剖、生理、臨床： Peter Duus 花北順哉訳 文光堂 2010</p> <p>日本人のからだ 解剖学的変異の考察：東京大学出版会 2000</p> <p>解剖学者が語る人体の世界：風人社 1996</p>	

【授業テーマ・内容】 神経解剖学				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	神経系の概要	神経系の構成や組織、代表的伝導路	知識の整理、画像の理解	60分
2	神経系の発生	神経管・神経堤の出現と神経系の発達	人体発生全般	60分
3	脊髄と脊髄神経	髄膜、白質の伝導路、灰白質の構造	脊髄神経の局所解剖	60分
4	脳幹と脳神経1	脳幹の神経核と脳神経	脳神経の局所解剖	60分
5	脳幹と脳神経2	脳幹の神経核と脳神経、網様体の連絡	脳幹の機能と生理	60分
6	大脳1	大脳皮質、視床、基底核と伝導路	伝導路と機能局在	60分
7	大脳2	大脳皮質、脈管、視床下部、辺縁系	大脳半球内側面の構造	60分
8	自律神経系と特殊感覚	交感・副交感神経系、視覚、聴覚	感覚器、鰓弓の器官発生	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>特になし</p>

【科目名】 臨床解剖学	【担当教員】 松村博雄 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] 304
【授業コード】 a 104	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
【講義概要】 突起や骨の形状、靭帯、腱、筋腹や皮膚のしわを参考にして皮膚の下に存在する解剖構造を知ることが、安全な臨床診療を進める上で不可欠です。また、運動、皮膚の神経支配などの知識や発生学的な知識も臨床の場で大変役に立ちます。 このように、局所解剖学の実際の知識が臨床の場では必要とされています。人体各部の局所解剖学を臨床と関連付けて解説します。 【一般教育目標(GIO)】 体表からの生体観察に基づく所見をもとに、その下にある局所解剖学的な構造を理解し、リハビリ診療の際に応用して役立てる。 【行動目標(SBO)】 生体観察の特徴をもとに、その下の解剖学的な構造を、皮膚、骨格、筋肉、神経、血管、内臓、感覚器などの観点から説明し応用する。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験80%、レポート20%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 特になし	
【指定図書・参考書】 特になし	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	胸部の局所解剖学(1)	帯状疱疹と肋間神経、デルマトーム	胸壁の構造	60分
2	胸部の局所解剖学(2)	浅肋間神経	脊髄神経の構造	60分
3	脳神経の解剖学(1)	三叉神経痛	脳神経12対について	60分
4	脳神経の解剖学(2)	鰓弓由来脳神経	脳神経の核について	60分
5	膝関節	膝関節の靭帯と筋肉、腰仙骨神経叢	膝関節を構成する骨性成分	60分
6	足根管	足関節の靭帯と筋、足根管の構造	足関節を構成する骨性成分	60分
7	手根管	手根管の構造、腕神経叢と神経麻痺	手根骨、橈骨・尺骨について	60分
8	手指の伸展機構	手指の伸筋・屈筋とその靭帯、運動機構の解剖学的構成	手の骨性成分とその関節	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
特になし

【科目名】 神経心理学	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 a 105	[オフィスアワー] 来学時に対応・土曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 1) 高次脳の機能と構造について再考し最新の知識を学習する 2) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する機能因子を探究する観察の重要性を学習する 3) 視覚・聴覚・体性感覚・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現を脳部位とともに学習する 3) 特に前頭葉と頭頂葉の役割および右半球・皮質下との関連について学ぶ 【一般教育目標(GIO)】 ・高次脳機能障害患者の様々な症状の意味を的確に把握、理解できるようにする 【行動目標(SBO)】 ・症状理解の方法が分かる	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 研究発表を課する。授業への取り組み 50%、研究課題発表 50%の割合で評価する。 講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、予備日に補講する。	
【テキスト・教科書】 Luria 神経心理学の基礎-脳の働き。鹿島晴雄訳，創造出版，2003。 適宜追加資料を配付する。	
【指定図書・参考書】 山鳥 重著 神経心理学入門 医学書院 1986 Rita Carter Mapping the Mind. University of California Press; Revised 版 2010. (初版邦訳「脳と心の地形図」養老孟司監修，藤井留美訳，原書房，2000.)	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	神経心理学の歴史と方法	脳を自己制御系として認識し、精神活動、運動と行為の機能的構造、その実現の脳の役割についての研究の歴史と方法概括	教科書の担当章を決定	60分
2	機能、局在、症状概念の再検討1	脳の局所病変と機能局在の基本原則 精神諸過程の系(システム)的構成	担当章に関する研究:文献検索を主に	60分
3	機能、局在、症状概念の再検討2	脳の三つの基本的機能単位系 覚醒調節, 情報受容, 活動, 相互作用	担当章に関する文献研究	60分
4	脳の局在系と機能分析:後頭領域	聴知覚機構 要素的視覚機能、視覚-認知機能	担当章をまとめ、発表に向けた準備	60分
5	脳の局在系と機能分析:側頭領域	聴知覚機構 要素的聴覚機能、聴覚-認知機能	担当章をまとめ、発表に向けた準備	120分
6	脳の局在系と機能分析: 感覚運動領域と前運動領域	運動の求心性機構、遠心性機構	担当章発表後のまとめと考察	60分
7	脳の局在系と機能分析:前頭葉	運動と行為、記憶および知的行為、前頭葉症状群	担当章発表後のまとめと考察	60分
8	脳の局在系と機能分析: 後頭、側頭、頭頂領域間の第三次 領域	同時性統合(具体的空間的統合、象徴的準空間的統合、言語記憶)と右半球の頭頂-後頭領域機能	神経心理学の各症状について具体的に調べ考察	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】神経心理学に重要な中枢神経系の解剖や画像診断に関しては、他の講義や上記の参考書等を参照されたい。また、講義の流れにより講義内容の順序等変更することがある。

【科目名】 リハビリテーション臨床学	【担当教員】 的場已知子
【授業区分】 共通科目	[オフィスアワー] 火・水・木
【授業コード】 a 106	[連絡] 事務に時間の確認をとってください。
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>心理学の基礎知識（国試レベル）を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。</p> <p>学外で授業を行うため、交通費等が発生する場合があります。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等・</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特になし</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>臨床心理学講義（杉浦京子）朱鷺書房，2008，¥2,800</p> <p>「聞く」こと力，鷺田清一，（TBSブリタニカ）</p> <p>現代言語論，立川健二・山田広昭，（新曜社）</p> <p>心理査定実践ハンドブック，（創元社）</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは.	実践（臨床体験） ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと. 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する.	30分
2	人間理解の方法			30分
3	臨床心理学の基礎理論			30分
4	心理学援助の方法Ⅰ			30分
5	心理学援助の方法Ⅱ			30分
6	心理学援助の方法Ⅲ			30分
7	様々な分野における連携と応用Ⅰ			30分
8	様々な分野における連携と応用Ⅱ			30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
実際の臨床現場で，症例検討を行います.

【科目名】 看護・介護論	【担当教員】 氏名 尾崎フサ子 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[内線] 315
【授業コード】 a 107	[メールアドレス] ozaki@nur.ac.jp [オフィスアワー] 火曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 1, 看護の科学を支える理論的基盤として、人間・健康・看護を学ぶ。また、健康と保健活動・環境や文化と健康のかかわり、国際的看護活動にも触れる。日本における看護の歴史はどのように発展してきたかを述べる。介護が充実してきている現在の状況がさらに発展するための視点を追求する。さらに、これからのリハビリテーションの役割と発展を論述する。 2, ここでは、対象者とのコミュニケーションの重要性を強調する。良好なコミュニケーションは対象者の免疫力向上及び、実施者の職務満足につながる。 3, 医療職者には欠かせない他職種との良好な連携とはを講義する。	
【一般教育目標(GIO)】 特記なし	
【行動目標(SBO)】 特記なし	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験 10%、レポート 90%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 資料を中心とする。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	社会における看護の機能と役割	看護の歴史—現在	準備：看護をどのように考えているか。自身の体験，聴いた話，または書物等から得たものなどから，「看護」を考える。学習者の考えを講義の中に取り込んで広げる。	30分
2	看護によって何ができるか	実際例をもとにして説明	準備：受講生の体験事例（読んだこと，聴いたことでも）を話す。その事例のなかで受講者は具体的には何ができただかを話す。さらに可能なことを示唆する。	60分
3	社会における介護の役割	介護のスタートから現在まで	準備：「介護」ということばはどこからスタートしたか。介護ということばにどんな印象をもつか。「介護を必要とする」とはどのような状況かを具体的に述べる。	40分
4	リハビリテーション	対象者に対するサポート体制	準備：リハビリテーションのことばは，いつ，どのようなかたちでスタートしたか。現在のリハビリテーションのもつ力を評価し，今後の方向性を考える。	60分
5	対象理解：コミュニケーション①	講義	1. コミュニケーションからみた医療の場 医療の現場も異文化コミュニケーション 2. コミュニケーションと文化，日本的コミュニケーションとその課題等	60分
6	対象理解：コミュニケーション②	講義	地域医療連携 ① 多施設間における情報の共有 ② ケアマネジャーなど介護職との連携および課題	60分
7	他職種との連携と協働	どうあるべきか	準備：他職種との連携と協働がスムーズであるか，スムーズと思えるところはどこか。スムーズでないところはどこかを話し合い，現在の時点をまとめ，将来をえがく。	60分
8	職務満足と対象者の満足	具体例をもとに話し合う	職務満足は思いやりや親切を伴った行動に結びつくこと，また，サービス提供者および顧客志向に直接的にポジティブな影響をもたらすことが知られている。自身のポジティブな気持が対象に影響を及ぼした例をしめす。(身近な健康者との間でも可)	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>相互に話し合いがもてる授業をめざす。</p> <p>ご自分なりの考えを述べてもらってすすめていく。</p>

【科目名】 リスク管理学	【担当教員】 田中 裕 (非) [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
【授業コード】 a 108	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 近年、高齢社会を迎え、急性循環不全・呼吸不全など、医療現場において患者の生命を脅かすような不測の緊急事態に遭遇することは決して少なくない。特に、超高齢者や摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時には、誤嚥、窒息、肺炎などの生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、高次脳機能障害者では脳卒中等の急性期管理などの危険をも伴う。そこで、この講義ではこれら医療現場における「患者の全身状態の把握方法」と「医療事故の発生を防止する対策」について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につけることを目的とする。さらに緊急事態の発生時にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念と知識を身につけるとともに、実際に「救急時の対応方法」を習得することを目標とする。	
【一般教育目標(GIO)】 医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。	
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインとその評価方法について説明できる ・心肺蘇生法適切に行える ・AEDを適切に使用できる ・救急蘇生について説明できる ・全身疾患とそのリスクについて説明できる 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 本講義の記述式試験を実施する。試験 60%、授業・課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。	
【テキスト・教科書】 瀬尾憲司：AHA ガイドライン 2010 と歯科医院での救急対処法、医歯薬出版（3,800 円＋税）	
【指定図書・参考書】 BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2015 準拠、株式会社シナジー（3,900 円＋税） ハートセイバー・ファーストエイド CPR AED 受講者ワークブック、株式会社シナジー（2,600 円＋税）	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リスク管理学 総論	リスク管理総論 バイタルサインの読み方・考え方	事後：学修した内容の復習	20分
2	リスク管理学 各論1-1	循環器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
3	リスク管理学 各論1-2	呼吸器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
4	リスク管理学 各論1-3	代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
5	リスク管理学 各論1-4	その他の疾患を有する患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
6	リスク管理学 各論2-1	救急蘇生1 —成人・小児乳児の心肺蘇生法—	事後：学修した内容の復習	20分
7	リスク管理学 各論2-2	救急蘇生2 —AEDの使用法、窒息の解除法—	事後：学修した内容の復習	20分
8	リスク管理学 各論2-3	救急蘇生3 —生命を脅かす緊急事態の対応—	事後：学修した内容の復習	20分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

医療従事者として、最低限の医学的知識、医療事故予防対策、および患者急変時の救急対応技術を身に付けていただきたい。

【科目名】 職場マネジメント	【担当教員】 小野東（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] ono@cs.k.tsukuba-tech.ac.jp
【授業コード】 a 109	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 前提知識は特に必要ありません。 《受講のルールに関わる情報》 本講義は単なる知識の習得にとどまりません。職場におけるさまざまな問題や事例が登場します。一緒に考えましょう。	
【講義概要】 職場は単に人が集まっただけではなく、一定の使命や責任を持つ「組織」を形成しています。組織は人なりと言います。組織を形成することで一人では不可能なことが実現できます。さらに組織自体が新しい責任を負います。逆に人が集まることで働く人相互の葛藤や課題や悩みも生まれます。これらはいかなる組織でも共通です。では職場では何が大切なのか、そのためには職場の管理やマネジメントについて学ぶことが大変重要となります。マネジメントは職場におけるさまざまな課題を知り、解決し、自己の向上力となり、さらには良い職場としていく力となります。	
【一般教育目標(GIO)】 皆さんが将来働いていくために、大学、病院、企業等の職場と組織の管理やマネジメントとは何かを学び、職場の運営や職場改善に役立てることができる能力を獲得することを目標とします。	
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場のさまざまな職場形態及び課題について学ぶ。 ・ 職場の使命とリーダーシップについて学ぶ。 ・ 職場の諸問題と内部統制やコンプライアンスについて学ぶ。 ・ 職場における人の生かし方や組織の日常運用と成長戦略を学ぶ。 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 授業中の質疑応答等 20%、最終課題のレポート 80%の合計を満点として評価する。	
【テキスト・教科書】 パワーポイント等によるオリジナルテキストを配布します。	
【指定図書・参考書】 講義中に必要なものを適宜紹介します。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	職場および職場管理の概要	事例から職場全体像について学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
2	職場の使命を考える	職場は単に人の集合ではなく組織である。組織には固有の使命があり、また自己実現の場でもあることを学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
3	職場管理とマネジメントについて	組織のさまざまな形態とその管理およびマネジメントについて学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
4	組織の変革と成長	組織はいつまでも同じであることはできないし変わらざるをえない。そのためにイノベーションが必要となる。イノベーションと成長について学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
5	組織の内部統制について	組織は使命達成のためなら何をやってもよいわけではない。社会的責任として透明性が必要となる。透明性の高い組織とは何か、また構成員の責任について学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
6	情報化社会における組織の特徴	情報発信一つで組織が揺らぐことすらある。IT化された組織の特徴と情報の利活用による組織のマネジメントを学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
7	職場の人間とマネジメントについて	職場の日常は課題山積である。労務管理、人間関係、業務執行状況、失敗と成功そして個人評価。それらの管理やマネジメントの考え方について学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分
8	職場と管理者	マネジメントにより職場も個人も成長できる。管理者（マネージャ）の負っている責任と必要なことについて学ぶ。	学修した内容の復習を行う	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<p>ほとんどの方は職場で人生の多くの時を過ごします。就業者の80%は何等かの職場という組織に属しているのです。働く理由はさまざまですが、人が集まれば悩みも葛藤も生まれます。そうならば、職場の管理やマネジメントのことを理解していた方がより良い人生が過ごせます。職場から得るものは多く、また人がいなければ逆に職場は成り立ちません。社会的責任も大きい。私自身、職場では悪戦苦闘の日々でした。もう少し職場について学んでいればな、と後悔することもしばしばありました。それらの経験や先人たちの知恵も多数教材に多数入れています。皆さんがより良い職業人として活躍できるように願っています。</p>

【科目名】 教授法	【担当教員】 鈴木憲雄（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] norisuzuki@nr.showa-u.ac.jp
【授業コード】 a 110	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 *可能であればPCを持参してください。	
【講義概要】 皆さんは今後、専門領域の研究者として使命を果たす一方で、専門職を指導する教育者としての役割を担うことが予想されます。「教える」とはどういうことなのだろうか。何を準備するとよいのだろうか。どうやって教えたらいいのか、何をおしえたらよいのか等、疑問は尽きません。 本科目では、より良い授業を展開するために必要となる、「教える」ことに関する基礎的知識を学びます。	
【一般教育目標(GIO)】 より良い授業を計画、実施していくために必要となる基礎的知識を身につける。	
【行動目標(SBO)】 01/ 「教える」の意味を説明できる。 02/ 「一般目標」「行動目標」「教育目標の3領域」とは何か説明できる。 03/ 「一般目標」「行動目標」を立案できる。 04/ 教科指導案に記載する内容を示すことができる。 05/ 教科指導案を作成できる。 06/ 客観試験、正答率、識別指数について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 本講義終了時に実施する確認テスト（80%）と一般目標・行動目標立案演習で作成した学習目標の提出物（20%）で評価する。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。	
【テキスト・教科書】 特に指定しません。必要に応じ資料を配布します。	
【指定図書・参考書】 参考図書として、 齊藤喜博：授業の展開，国土社，2010 池田輝政・他：成長するティップス先生，玉川大学出版部，2001 日本医学教育学会：医学教育マニュアル1 医学教育の原理と進め方，篠原出版新社，1978 日本医学教育学会：医学教育マニュアル2 カリキュラムの作り方，篠原出版新社，1979 他，講義内で紹介いたします。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	「教える」の意味 教育目標の階層性	意図的用法, 成功的用法 教育施設の目標, ポリシー, コンピテン シー	学修した内容の復習を行う	30分
2	教育目標	一般目標, 行動目標, 教育目標の3領域	学修した内容の復習を行う	30分
3	教育目標立案	テーマに従った教育目標の立案演習	学修した内容の復習を行う	30分
4	教育目標立案	テーマに従った教育目標の立案演習	学修した内容の復習を行う	30分
5	教育目標立案 教科指導案	教育目標の発表・討議 記載すべき内容, 教材	学修した内容の復習を行う	30分
6	教科指導案作成演習	教科指導案を作成する.	学修した内容の復習を行う	30分
7	模擬授業	教科指導案に従った模擬授業 討議	学修した内容の復習を行う	30分
8	試験	客観試験, 正答率, 識別指数	学修した内容の復習を行う	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

2日間の集中講義となり、大変ですが、より良い専門職教育を目指して「教えること」について一緒に楽しく議論しましょう。